

編集後記

東日本大震災によって被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。

平和で、終わりのない日常が、このような形で終わりを告げるとは、だれが考えたでしょうか。原発の放射能の被害がいまも続いている現状において、日本は敗戦以来、最大級の国難にさしかかっているといえます。

この国難を、日本人は、たぐいまれな結束力と、その底力によって、遠からず切り抜けることでしょう。日本の底力の源泉に、長い伝統をもつ日本文化があることは間違いの無いことです。そうした日本のよい伝統や文化について言及して、研究を重ねていくのが我々に課された使命であると心得て、今年も、このような雑誌を皆さまにお届けする次第です。

よりよき文化の伝統は必ずや、諸外国に伝播し、世界に大きな影響を及ぼすことは、これまでも歴史が証明してきたことでもあります。雑誌に掲載された六本の論文が雄弁にそのことを物語っているように思うのです。

(加藤)

東海学園 言語・文学・文化

第十号 (通巻第六十九号)

平成二十三年 三月二十日 印刷
平成二十三年 三月三十日 発行 非売品

編集 名古屋市天白区中平二丁目九〇一 番地
発行 東海学園大学日本文化学会

代表 加藤 孝男

電話 (五二)八〇一―二二〇一
振替 〇〇八三〇―五―二九三二

印刷所 豊橋市下地町字宮腰二四

(有) イシグロ 高速印刷